

なぜ、障害者に
働き口がないの。
納得いかないから、
自分がやる

シリーズ・農と生きる障害者 10
株式会社 千葉農産

編集部=文
text by KOTONONE
山本 高明=写真
photograph by Naoaki Yamamoto



山を切り開いて
畑をつくる

「ここはもともと酪農家さんが持っている山なんです。向こうにほら、牛舎が見えるでしょ。株式会社千葉農産福祉部の白石賢三さんが指差した先には、建物の屋根。酪農家さんは、牛糞の処理で困っていたらしゃって、野菜も牧草もつくっていないので、これまで牛糞が出ると地面にどんどんまいて、匂いが出ないようにトラクターで耕すだけでした。そこで、ここを貸していただければ、牛糞の処理をしますよ、とご提案をしてお借りすることができました。千葉農産は、ここ木更津のほかに、富津、君津、袖ヶ浦にも農場を持っている。その多くは、地元農家や酪農家に土地を提供してもらう形で運営している。「この誰だかわからない人間には畑を貸せない」ということはこちらもわかっています。だからまず、このように、もとは農地だったけれど、いまは使っていない土地を、『きれいにするから貸してください』って言うところから始めるんです。その土地がきれいになって、野菜や稲が植えられている

取材日は、朝から霧雨。
ものともせず、トラクターを駆り、
畑に出る。

千葉農産・福祉部のメンバーは、
みんな未経験で、農業の世界に入ってきた。
でも、今日の姿は立派な「農家」だ。
「障害者の力を見せたい」と言う、
千葉農産・白石賢三さんに話を聞いた。



ブロッコリーの葉に雨粒がたまる

のを見てもらう。そこから少しずつ、
じゃあもう少し貸してみようかなって。
その積み重ねです」。ここもはじめ
は森のように木が鬱蒼としていた。そ
れを伐採し、開墾して平らにして畑
として使っている。また、餌やりや清
掃など、牛舎の管理も請け負ってい
る。

木更津の農場では、ブロッコリーを
育てている。今日はブロッコリーの定
植作業。ここ数日、雨続きで作業が
遅れ気味だ。今日も朝から霧雨だが、
多少の雨でも畑に出る。作業時間は、
朝七時から夕方五時までが基本とな
る。朝はみんな富津の事務所を集
まってから、農場へ向かう。「本日に仕
事が忙しいときには、泊まり込みする
こともありますよ。夜中の一時、二時
まで植え付けをしたり、肥料をまい
たり。最近ではトラクターにも明るい
ヘッドライトがついていますから、関係
ないんですよ」と白石さん。障害の
ある人はなるべくその日のうちに
帰ってもらうようにしているが、それ
でも繁忙期には、朝五時に来ても
らったりすることもあるという。